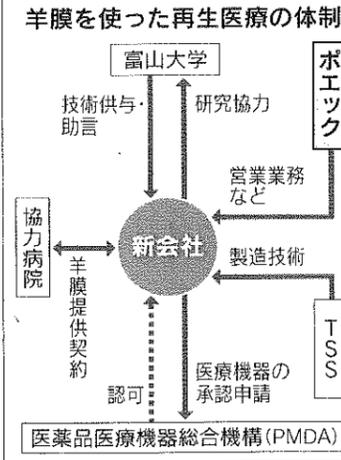


ポエックが再生医療事業

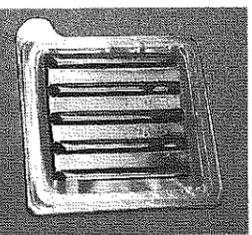
羊膜活用、3年内に実用化

ポンプ機器販売などを手掛けるポエック(広島県福山市)は、富山大学などと組み、ヒトの胎児を包む羊膜を活用した再生医療を事業化する。事業を推進する新会社を月内に設立し、認可を得て3年以内をめどに医療現場で使えるようにする。政府が成長戦略の柱として再生医療の実用化を後押しする方針を掲げる中、新たな成長の柱として産学連携により先端医療分野に参入する。

富山大などと連携



実用化するのはマイク口波や遠赤外線で細胞の再生を促すなど羊膜の特性を保ったまま乾燥する



透明な樹脂で包装して提供する(製品イメージ)

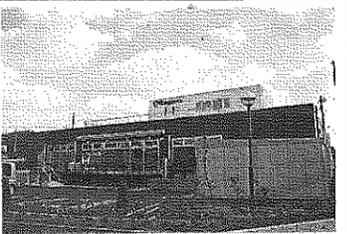
技術。一部が損なわれた目の角膜や脳硬膜などにシート状の乾燥羊膜を移植し、組織を回復する。医学部の二階堂敏雄教授が開発した国内の製法・用途特許を取得。欧米でも特許を申請中だ。ポエックは富山に拠点を持つ機械メーカーのTSS(東京・品川)と連携して製造技術を提供する。

もに24日付で富山県朝日町に新会社、アムノスを設立する。資本金は2000万円。ポエックが6割、TSSが4割を出資する。ポエックの米山哲二社長が就き、富山の二階堂教授も取締役として経営に参画。技術供与を受け、乾燥羊膜シートを製造・販売する。米山社長は富山出身。富山と関わりのあるTSSとともに、富山大とは研究段階から協力関係にあった。ポエックは事業の統括や営業などを受け持つ。TSSは主に製造技術を提供する。

羊膜はマイナス80度の低温でも3カ月しか保存できないが、新手法は2年間効果を保つという。富山大は約1000件の臨床研究を重ね、拒絶反応や病気の再発がないことを確認した。アムノスは2017年までに審査機関の医薬品医療機器総合機構(PMDA)から「医療機器」の認可を得て製造・販売を始める計画。2枚1角の乾燥羊膜シートを4万円程度で販売し、5年目で輸出も含め400億円の上高を目指す。ポエックなどは科学技術振興機構(JST)に12億円の助成金も申請済み。認められれば製造設備の整備などに充てる。事業化には年間1000件程度の羊膜が必要で、国内の病院から母親などの許諾を得て提供を受ける方針で調整を進める。今秋には改正薬事法が

北川鉄工所 独身寮が完成

災害時は対応拠点



北川鉄工所が広島県府中市で建設していた独身寮「桜が丘寮」が完成し、23日写真。4億円を投じた11写真。3階建てで延べ床面積2382平方メートル。敷地面積3338平方メートル。69室あり、食堂やミーティングルームも備えた。人材獲得に生かすほか、大規模な災害発生時には本社に代わる対策本部の機能も持たせる。2、3階に独身者用の

教育ローン

昨年4月12月、年収日本政策金融公庫が手掛ける教育資金向け融資と、2013年4月の5県での融資実績は前年同期比7%増の12億1千万円だった。融資対象の子

羽田便の増便延長

米子発着 鳥取と萩・石見も増

全日空

全日本空輸は3月29日 行需要を取り込む。まで1日1往復増便して6往復で運航する米子。羽田線の増便期間を5月31日まで延長する。また羽田と鳥取および萩・石見を結ぶ路線は国土交通省の入れで得た新たな羽田発着枠を生かし、3月10日に1往復増便する。出雲大社の遷宮効果などで好調な山陰方面への旅

1往復を再度増便する。鳥取-羽田線は3月30日、10月25日、同日1往復増便し5往復とする。羽田発は5時間以上空いている2便目と3便目の間に1便(12時30分発)を増やす。萩・石見-羽田線は米子と羽田、新三蔵、那覇を結ぶ路線を4月に就航すると発表した。

広島銀、7.6億円協調融資

太陽光事業者に 山口の信金などと

広島銀行は山口県防府市(同防府市)と協調融資した。融資額は計7億6000万円。うち半分は初めて。金融機関が強を広島銀が占めた。広島銀が山口県の太陽光発電事業者に協調融資する

松江市内の若手経営者でつくる「カニ小屋」プロジェクトは2月、市内に松葉ガニや紅ズワイガニを割安な価格で食べることができるよう店舗を開く。市内への観光需要が例年落ち込む冬場の集客策として取り組む。カニ小屋はJR松江駅から徒歩15分程度の松江港管理所1階に設ける。2月中の夜は毎日、土日祝日は昼も営業する。一般客のほか、

松葉ガニなど割安で「カニ小屋」来月開店

松葉ガニが1は1900円、同プロジェクトは2500円、紅ズワイガニが同800円、1000円。昨円とスパーなどより割安。想の1とした。客がカニをテーブルの上のコンロで自分で焼く。今年はお客がカニをテーブルの上で焼く。今年はお客がカニをテーブルの上で焼く。今年はお客がカニをテーブルの上で焼く。

仕掛ける

島根県の宍道湖と日本海との間の中海に浮かぶ大根島はかつて雲州人参(高麗人参)の生産が盛んで、松江藩の財政を支える特産品の一つだった。しかし、今では生産農家がわずか数軒と、伝統の継承は風前のともしびだ。大根島で観光施設を運営する日本庭園由志園(松江市)の門脇豪専務は特産品復活への取り組みに力を入れる。

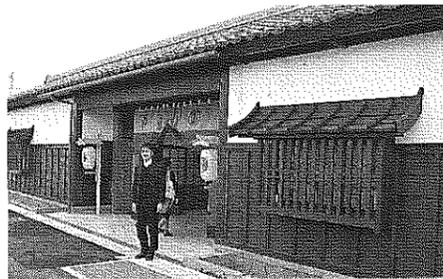
特産品「雲州人参」復活へ

日本庭園由志園専務 門脇豪さん



時代にあった人参の集荷場「人参方」を復元し、オープンしました。築200年の古民家で

かどわき・ごう 島根県八束町(現松江市)出身。1993年徳山大学経済学部卒。大阪で観光関連の会社に就職。98年に帰郷し、日本庭園由志園に入社。営業や造園業務、厨房業務などを経験。2010年に専務に就任。43歳。



松江藩時代に雲州人参の集荷をしていた「人参方」を復元(島根県松江市)

集荷場復元、技術継ぐ

使われていた木材や、当時の人参方と同じ屋根瓦を取寄せ建設した。収穫した人参を蒸したり乾燥したりする設備を備えた500平方メートルの作業場と、ミュージアム150平方メートルからなる。作業場は5年前に設立

「昭和40年(1965年)代には500軒の農家が作っていた。香港や台湾で大根島産は評価が高く輸出も盛んだった。しかし、80年代には生産は減っていった。いまでは生産する農家はわずか2軒だ。」「当社では観光と結びつけて伝統を復活させようという。9年前から(人参を生産する)農家へ作り方を学ばせ、種加工食品などの開発・販売を強化していく。」「復活の手応えは。」「需要が増えれば農家から門外不出で資料もなかった人参を適正価格で買い取る思いが受け入れられ教えられるようになった。」「今後の計画は。」「人参は種をまいてから収穫まで6年かかる。現在、初期の研修段階のものが育ち年間500kg程度を収穫

競馬場の跡地に公園や運動施設 福山市が整備方針 広島県福山市は2013年3月末に閉鎖した市営競馬場の跡地に公園や緑地、スポーツ施設を整備する方針を固めた。市民への活用策の調査結果を踏まえた。今年3月末までに基本構想にまとめ、大規模商業施設は構想に含まれなかった。羽田市長は競馬場跡地を市内中心部に残る「最後の大規模開発用地」として、計画に市民の声を反映させる考え。アン

広島

広島支局 0842-2441155
福山支局 0844-933233455